

自動車整備士に留学生を初採用

「勤勉で優秀」今後も継続 熊本トヨタ自動車

一方、初めて外国人留学生の採用に踏み切った企業もある。

熊本トヨタ自動車(株)(熊本市南区日吉2丁目、井原宏社長)は、若い労働力確保に苦戦している自動車

整備士に、創業以来初めて外国人留学生を採用した。

同社は、大卒の営業スタッフの採用においては毎年3〜5人を定期採用し、今春も3人が入社。その一方で、課題は自動車整

備士の確保だった。

この整備士に関しては、日本人の専門学校入学者も年々減少している状況といい、同社はこうした環境を改善すべく5年前から高卒を採用し、自社で整



▲1級自動車整備士資格とトヨタ検定1級の取得が大きな目標という熊本トヨタ自動車の整備士パラサドさん

備士を養成する取り組みを始めた。しかし、なかなか定着せず、現在では社員として籍を置いたまま2年間専門学校に通わせ、卒業したら同社の整備士として働くという仕組みで人材を確保している。

こうした厳しい環境の中、新たな選択肢として実施したのが外国人留学生の採用だ。同社は今春、九州工科自動車専門学校(同市中央区本荘町)を卒業し、2級自動車整備士資格を

取得したネパール出身のチャウラガイタルパラサドさん30歳を採用した。

世界一の技術を日本で

パラサドさんは「子ども頃、家の近くに整備工場があり、将来は自動車のエンジニアになりたいという夢があった。しかし、ネパールにはエンジニアの仕事は少なく、それならば世界一の技術をもつ日本で勉強したい」と思い、留学を目指した」と話す。

来日は25歳の時。北九州市の日本語学校で言葉や文化を学び、九州工科自動車専門学校の国際自動車科に入学。3年間は常にトップクラスの成績を続け、日本の2級自動車整備士試験に合格。学校からの強い推薦もあり、同社への入社を勝ち取った。



▲エンジニアとして定期検査や車検業務を担当

「後輩が入社しやすい環境作る」



熊本トヨタ自動車
井原 宏 社長

現在、エンジニアとして定期検査や車検業務を担当。「学校で学んだ技術だけでは通用しない。先輩から教わり、何でも覚える必要がある」と話す。

こうしたパラサドさんの働きぶりに井原社長は「彼は優秀で日本語もうまく、非常に勉強熱心。早くお客さまから信頼されるエンジニアになってもらいたい」と期待し、「今後こうした外国人技術者の採用を続けていく計画」と話す。

「ハングリー精神は社内活性化にも役立つはず」

九州工科自動車専門学校

熊本トヨタ自動車に入社したパラサドさんのように、県内外の自動車関連企業への就職を目指す留学生が増えている。

た九州工科自動車専門学校は今春、留学生を受け入れる国際自動車科(3年コース)の定員を従来の25人から35人に増員。現在、自動車整備科2年コースの留学生14人を含め94人

が就学中で、国籍は多い順にネパール、ベトナム、スリランカ、バングラデッシュとなっている。同校の千綿伸洋校長は「2年前、県内外の自動車関連企業約30社のサービ



▲自動車整備士を目指す留学生が増えている九州工科自動車専門学校(熊本市中央区本荘町)。今春から国際自動車科(3年コース)の定員を従来の25人から35人に増員した。写真は国際自動車科で学ぶ1年生

担当部長や採用担当者を招き、校内でサービス技能コンクールを開催した。結果は上位3チームはすべて留学生。その状況を目の当たりにして以来、留学

生の採用が広がりつつある」と話す。

同校は毎年、合同就職説明会を開催しているが、昨年は県内外から31社が参加し、そのうち14社が留



九州工科自動車専門学校
千綿 伸洋 校長

学生の採用を表明、9社が検討中だった。今年も10月後半の開催を予定してお

り、40社余りの企業が参加を表明しているという。

千綿校長は「留学生の多くは多額の費用を払い、借金をして日本で学んでいる。日本での生活も『資格外活動』という規定の中で週28時間しか働くことができず、日々の生活にも困

窮している状況。そうした環境の中でも必死に勉強し、日本企業へ就職して長く働き続けることを目標にしている。彼らのハングリー精神はきつと社内での活性化にも役立つはず」と力を込め、県内企業の採用拡大を期待する。